

Reader's Voice

2014年夏号・第1特集「幼児教育に求められる『遊びの質』とは何か」、
第2特集「先生同士の『同僚性』を高める」へのご意見

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生がたからのご意見をご紹介します。

*『これからの幼児教育』のバックナンバーは、「ベネッセ教育総合研究所」のウェブサイト (<http://berd.benesse.jp/>) でご覧いただけます。

◎第1特集を読んで、子どもにとっては、どんなことも「遊び」感覚になり得るのだとわかりました。「自発性」「自己完結性」「自己報酬性」の3つの要素は、なるほどと思いました。大人にとってもそう言えますね！「学び」を見直すきっかけになりました。

(愛知県・私立幼稚園)

◎河邊先生のお話はとてもわかりやすく、遊びは『混沌』の中に『秩序』を見いだす営みであり、学びそのもの』というところが特に印象に残りました。

(東京都・公立幼稚園)

◎遊びを中心とした保育が定着しない理由として「放任」になってしまうこと、「休み時間」のようにになってしまうことが指摘されていましたが、思い当たることがあり、ドキッとしました。幼児期の遊びが重要であることをしっかり認識して、保育者が子どもの遊びを適切に援助できるようなスキルを身につけられたらと思います。

(熊本県・私立保育園)

◎保護者に「遊びの重要性」を理解してもらいたいと思い、資料を作っていたときに第1特集を読みました。「遊びの質」に関する説明は非常にわかりやすく、資料作りにとっても役立ちました。遊びを中心とした保育が

定着しにくい理由は、自分自身にも漠然とした理解しかありませんでしたが、保護者に明確な形で説明できそうです。

(福岡県・私立保育園)

◎第2特集では、「雑談を通して」保育者同士が理解し合い、その結果、子どもの理解も進むという考えに共感しました。私も園長として、「絶対に保育者を孤立させない」「全園児を全職員が知る」を念頭に置いて、日々保育を行っています。

(岩手県・公立保育園)

◎保育者全員が同じ方向を向いて子どもたちの保育にあたっているつもりですが、つつい一人ひとりの保育者の「できていないところ」に目が行きがちです。「子どもの主体性を伸ばしていく保育を目指す」のであれば、まず園長が「保育者の主体性を尊重すること」が必要でしょう。私も原点に帰らなければ強く思いました。

(東京都・認定こども園)

◎当園も、ベテランと若手がキャリアに左右されず、自由に思いを述べられるよう試行錯誤してきました。園だより、学年だより、行事など、それぞれに担当者を決め、責任をもって運営していくようにすると、若手でもチームリーダーになることができ、園全体が活性化しています。

(富山県・認定こども園)

編集後記

ある先生の保育を見学したときのこと。遊びが停滞していたところにその先生がひと言声をかけたところ、子どもたちの表情や行動、その場の雰囲気ガラリと変わりました。自分たちの気持ちを理解してもらえて、子どもたちもうれしい気持ちになったのだらうと感じたと同時に、援助の背景にあった深い子ども理解に心打たれました。(橋村)

『これからの幼児教育』2014年秋号

2014年10月8日発行

発行人 谷山和成
編集人 小泉和義
発行所 (株)ベネッセホールディングス
ベネッセ教育総合研究所
凸版印刷(株)

印刷製本 編集協力 (有)ペンダコ
執筆協力 二宮良太
撮影協力 ヤマガチイッキ、荒川潤、谷口哲
イラスト協力 アサマリカ

お問い合わせ先

◎情報編集室
〒206-0033 東京都多摩市落合1-34
電話:042-311-3390

※本誌は最新号・バックナンバー等の追加発送は行っていません。すべての記事はベネッセ教育総合研究所のウェブサイトからPDFでご覧いただけます。ぜひご利用ください。
<http://berd.benesse.jp/>

ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトには 調査データや最新の教育・保育情報が満載です!

乳幼児領域から大学領域などの各研究室の研究レポートや、情報編集室発刊の情報誌が、すべてご覧いただけます。
現在の教育課題に対する提言「ベネッセのオピニオン」、世界の保育や子育てがわかる「チャイルド・リサーチ・ネット (CRN)」など、ウェブサイトでは読めないコンテンツも満載です。

次世代育成研究室

乳幼児を取り巻く情報の入口

ベネッセのオピニオン

教育課題への提言(毎月)

調査・研究データ

子育てや保育のデータ満載

『これからの幼児教育』

創刊以来のバックナンバー掲載

『チャイルド・リサーチ・ネット (CRN)』

世界の保育・子育て情報

※ここでご紹介した内容、デザインなどは変更になる場合があります。

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりが学びに向かい、
今と未来を“よく生きる”ことに
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

アクセス方法は <http://berd.benesse.jp/> または **ベネッセ 研究** で **検索**